

■はじめに

それぞれの学校では 1 年間の振り返りをすると同時に、来年度に向けての計画を練り始められている時期だと思います。各学校で作成された学校ビジョンに則り、しっかりと組み立てていただきたいと思っています。



■奈良市がめざす 5 つの柱



1 つめは ICT を活用した教育についてです。これだけ身の周りに浸透してきている ICT ですから、教育と切り離して考えるようなことはせず、むしろ積極的に活用していく時期にきていると思います。近い将来、どの学校にもタブレット端末がある状況となるのではないかと考えますし、そのための準備や研究は進めていこうと思っています。

その事例として、済美小学校の「新南都八景」の公開授業を見てきました。実は、平成 21 年の世界遺産学習全国プレサミット in ならでも同じ取組の発表がありました。当時は、残したい奈良の風景の写真を黒板に貼っていくというスタイルでしたが、今年度の取組は、子どもたちがタブレット端末を用い、写真をテレビの画面に映すという発表でした。まさに、アナログからデジタルに移り、授業のスタイルも「黒板とチョーク」といったスタイルからどんどん変わっています。これこそ、「学びのイノベーション」ではないのでしょうか。

2 つめは英語教育についてです。文部科学省が、小学校の英語教育を小学校 3 年生に引き下げ、5、6 年生で教科化する方針を打ち出すなど、議論が活発化してきています。



本市では、平成 19 年度より小学校ハローイングリッシュ事業を開始し、小学校 3 年生以上のすべての学級に英語アシスタントを派遣し、いち早く英語教育に取り組んでまいりました。また、小中一貫教育パイロット校において、小学校 1 年生から英会話科に取り組み、実践を積んでいただいております。このことについても、さらに取組を進めていこうと思っています。

このように、奈良市では、早い時期からの英語教育に取り組んでおりますが、その第一の目的は、決して英語が流暢に話せる子どもを養成することではありません。英語の学習

を通して、子どもたちの目を世界に向けさせ、世界の様々な文化とそこに住む人々に関心を持ち、自国の文化とともに、多様な文化を受け入れることのできる人材を育成することが大事であると考えています。

今後、小学校現場でも、外国語を母語とする ALT との交流や学習の機会が増えるようにしていこうと思っています。その ALT との学習についても、ぜひ、それぞれの学校で工夫した取組をお願いしたいと思います。一つのクラスのなかで、ALT と担任で、英語の勉強をする。もちろん、そういったオーソドックスな方法もあるでしょう。でも、発想を変えて、もっと効果的な、今までと違う形での活用方法はないのでしょうか。例えば、体育の時間に ALT も混ざって授業をする。美術の時間に、「オー、ビューティフル」などと ALT がみんなに声をかけて、コミュニケーションをとっていきような活用方法を考える。給食も一緒に食べ、休み時間も一緒に遊ぶ。もっと言えば、部活動のコーチをしてもらう。そんな発想もありかもしれません。或いは、一つの学校に複数の ALT を集めて、「オール・イングリッシュ・デイ」にしてみる、そんな方法もあるかもしれません。「さすが、奈良市の英語教育は、面白い。」と、全国からも注目されるような、そんな英語教育ができればよいと思っています。人をどう活用するかは、現場の先生方にかかっています。ぜひよろしくお願いいたします。奈良で学んだ子どもたちが、英語をツールとして活用しながら、奈良のことや自分の思いや考えを、相手に伝えることができるようになることを望むのです。



3つ目は、世界遺産学習です。ぜひ、それぞれの学校で、新しい題材の開発と、今までの取組の発展との、両輪で取り組んでいってください。教育とは実践の世界です。この実践をどのように積み上げていくかが大切です。同様に、若い先生方がいろいろ悩みながら、新しい教材開発に向け試行錯誤を繰り返すことで力をつけていくのであらうと考えます。簡単には力はつきませんし、近道な

どはないと思っています。

4つめはキャリア教育についてです。キャリア教育とは、人や社会とのかかわりを通して生き方を学ぶ教育です。キャリア教育という教科があるわけでも、キャリア教育専門の先生がいるわけでもありません。全員で、学校教育全ての中で行っていく教育です。

それぞれの学校で来年度の計画を立てていくとき、このキャリア教育の視点をぜひ持っていてほしいと思います。例えば、キャリア教育の視点で学校の取組を振り返って、「世界遺産学習の中で身に付けていく能力は、どのようなものなのか考えてみる。」「今度実施される防災



生徒総会の中では、「どのような力が身につけていくのかを振り返ってみる。」「地域で決める学校予算事業の中で、どのような力が身に付いてきたのか。」「職場体験で、職業意識が高まり、将来の自分について考える機会となっているのか。」もちろん、それぞれの教科学習の中で、「なぜ、この教科を学ぶのか。」「将来、この学習がどう役に立っていくのか。」といったことも含めて、もう一度見直してほしいと思います。

キャリア教育については、これからの奈良市の教育の柱の一つに据えて、取り組んでいこうと考えています。

⑤小中一貫教育



5つめは小中一貫教育についてです。平成27年度の全市展開に向けて、それぞれの学校でも、すでに準備が始まっているだろうと思います。実は先日、今年3回目の、小中一貫教育推進委員会がありました。校園長会代表の先生も出席して、意見をいただきました。今年度の取組を報告し、来年度の取組の事務局案を説明したのですが、委員の大学の先生からは、厳しいご

意見も頂きました。

「平成27年の全市展開がゴールではない。小中一貫教育で何をめざすのか、9年間にどんな力をつけるのか、ゴールをどう設定するのか、ということをしっかりと考えて、27年度を迎えていかなければならない。」というご指摘や、「教員の意識が低い。教員の意識を高めるためには、校長が自分の中学校区での小中一貫教育のビジョンを示す必要がある。」というご指摘をいただきました。

また、委員会の最後には、京都教育大学副学長の高乗教授から、「27年度に、勢いよくスタートするためには、26年度は重要な年だ。」という言葉もいただきました。「まだ全市展開まで1年あるからいいや。」ではなく、「来年度の4月には、全市展開になったつもりで取り組まなければならない。」という緊張感をもって、今年度を振り返り、来年度への準備をお願いします。そういった意味からも、この年度末の総括と来年度の学校の経営方針を考えていくこの時期、中学校区の小学校と中学校が連携を取りながら、意思の疎通を図り、来年度の計画を考えていってほしいと思います。

■終わりに

「予算が付いたからやる」というのではなく、「教育を充実していくために必要だからやるのだ。限られた予算の中でも、工夫して、精いっぱいやっていく。たとえ予算がつかなくてもやっていく。」という気概をもって、取り組んでほしいと思います。教育に一番大切なものは、予算ではなく、それを行う「人」です。今回紹介した5本の柱につ

「教育は人なり」



いて、それぞれの教員研修体制にも力を入れています。教育センターでの研修はもちろんですが、それぞれの学校でも校内研修の充実をお願いするとともに、日常の職員室の中でも、ベテラン教員が若手教員を鍛えていくような、或いは、逆に若手教員がベテラン教員にくらいついて行くような雰囲気をつくり、学校全体が元気にあふれ、一人一人の教員が育っていくようにお願いします。